謹賀新年！今年も歴史を前に進めよう

4日目40人

2010年正月元旦に生活保護申請・受理

所長みずから来村

2010年がスタートしました。昨日からの強風のためテントの補強をしながらの元日から派遣村が開村でした。

その派遣村では、2010年正月元旦に、生活保護申請を行いました。昨日の夕方に訪ねてこられた方で一泊だけシェルターに泊まって、元日の朝にアパートを探して、大家さんの好意、その日から住むことができるようになって生活保護につなげました。この申請には、福祉事務所の所長みずからが来村して受理し、つなぎ資金も持参してくれました。

おかやま「年越し派遣村」を昨年12月29日に開いて、シェルター利用や炊き出し、相談活動、生活保護申請などを行ってきましたが、年が明け早々に、行政を動かし、市民の要求の前進が勝ち取れたこととなります。

「ワンストップの会」の相談会場で、受付に並ぶ人たち＝３０日、東京新宿

相談は3件でも・・・

この日は、炊き出しには40人くらいの人が訪れましたが、相談は3件でした。ボランティアも正月元旦ということで30人と少人数でしたが、何とか無事に夕方まで過ごすことができました。しかし、村を閉じた後で相談者が訪れたため一人だけ村で夜を過ごしてもらうこととなりました。

東京でも派遣村

国と東京都が開設した「公設派遣村」には31日、86人が入所（午後5時現在）し、入所者数は723人になりました。

年越し派遣村が必要ないワンストップ・サービスをつくる会は、公設派遣村の入所希望者から生活相談を受け、30日までに109人の生活保護申請をしました。

ワンストップの会の宣伝と生活相談のボランティアには31日も110人が参加。相談テントには約100人が訪れました。公設派遣村でも、「年明けの生活が心配だ」という入所者の声にこたえ、施設前で生活保護制度などの街頭学習集会を開きました。施設前庭に100人近い入所者が出てきてメモをとるなど真剣に聞き入りました。

全労連の井上久事務局次長は「派遣村が終了する1月4日以降も放り出すことのないよう都と交渉しています。元日から会場前で生活相談会を開きます」と報告。作家の雨宮処凛さんも、制度を活用して生活再建しようと訴えました。

派遣・労働者支援センター

派遣村ニュース

第４号　　2010年１月１日

発行：派遣・労働者支援センター

岡山市北区春日町5-6　県労おかやま内

TEL. 086-234-2041　fax. 086-221-3595